

教科（科目）	技術科	単位数	2 単位	学年	1 学年
使用教科書	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology（東京書籍）				
副教材等	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology 学習ノート（東京書籍）				

- ・現在および将来の生活に必要な知識と技術の確実な定着。
  - ・生活を工夫し創造する力と実践的な態度の育成。
  - ・ものづくりなどの実践的かつ体験的な学習活動を通じた知識および技術の習得。
- ・技術と社会や環境との関わりについて理解し、技術を適切に評価し活用する能力と態度の育成

## 1 学習目標

- ①基礎的な技術を学び、その科学的な根拠を理解すること。
- ②創意工夫して、ものを作ること。
- ③仕事を計画的かつ合理的に進めること。
- ④班学習を通して、協同と責任と安全を重んじること。
- ⑤技術と生活との関係を理解し、実際に活用すること。

## 2 指導の重点

## 3 評価基準

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	材料と加工、情報に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的かつ基本的な技能を身につけることができる。 材料と加工、情報に関する技術についての基礎的かつ基本的な知識を身につけ、技術と社会や環境との関わりについて理解することができる。	材料と加工、情報に関する技術のあり方や活用の仕方などについて課題を見つけて、技などとともに、その課題解決のために工夫し創造して、技術の評価し活用することができる。	材料と加工、情報に関する技術について関心を持ち、技術のあり方や活用の仕方などに関する課題の解決のために、主体的に技術の評価し活用しようとするとともに、仲間と協力して活動することができる。
評価方法	・木工作品、ブックエンド、ノートやレポートなどの提出物 ・自己評価カード ・定期考査 ・技能テスト など	・木工作品、ブックエンド、ノートやレポートなどの提出物 ・自己評価カード ・定期考査 ・技能テスト など	・ノートやレポートなどの提出物 ・自己評価カード ・定期考査 ・技能テスト など

#### 4 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動	評価 の観 点	評価の方 法
10	○ガイダンス	6	技術分野のガイダンス	○技術分野のガイダンス ・技術は未来を創る ・技術は生活に直結する ・これからの学習について	a b c	ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード
11	○材料と加工法 ○製作品の設計・製作 (ブックエンド)	6	材料と加工の技術	○材料と加工に関する技術 ・材料の特徴を知る ・材料に適した加工法を知る ・製品を丈夫にする方法を知る	a b c	ブックエンド、ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード
12	○材料と加工の技術の評価・活用	6	加工技術の問題解決ブックエンド	○材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計 ・製作品の設計と製図  ○設計の評価	a b c	自己評価カード 技能テスト
1	○製作品の設計・製作 (マルチラック)	6	加工技術の問題解決マルチラック	○材料と加工に関する技術を利用した製作品の製作 ・製作の作業手順 ・基礎技能	a b c	マルチラック、ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード 定期考査 技能テスト
2	○材料と加工の技術の評価・活用	6			a b c	
3		6	社会の発展と技術	○部品加工に関する技術の評価・活用 ・完成した製作品の評価 ・持続可能な社会のための技術	a b c	

#### 5 課題・提出物等

木工作品、ブックエンド、マルチラック、ノートやレポートなどの提出物、自己評価カード、技能テスト

#### 6 担当者から一言

技術は自分の生活をより便利に、より安全に、より効率的に、より最適に改善していく教科です。授業で、最適化の見方考え方を身につけ、社会や普段の生活を自ら改善していく力を身につけましょう。

教科（科目）	技術科	単位数	2 単位	学年	2 学年
使用教科書	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology（東京書籍）				
副教材等	技術・家庭総合ノート 技術分野（東京書籍）				

- ・現在および将来の生活に必要な知識と技術の確実な定着。
- ・生活を工夫し創造する力と実践的な態度の育成。
- ・ものづくりなどの実践的かつ体験的な学習活動を通じた知識および技術の習得。
- ・技術と社会や環境とのかかわりについて理解し、技術を適切に評価し活用する能力と態度の育成。

## 1 学習目標

## 2 指導の重点

- ①基礎的な技術を学び、その科学的な根拠を理解すること。
- ②創意工夫して、ものを作ること。
- ③仕事を計画的・合理的に進めること。
- ④班学習を通して、協同と責任と安全を重んじること。
- ⑤技術と生活との関係を理解し、実際に活用すること。

## 3 評価基準

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	エネルギー変換、生物育成に関する技術についての基礎的かつ基本的な知識を身につけ、技術と社会や環境との関わりについて理解することができる。 エネルギー変換、生物育成に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技能を身につけることができる。	エネルギー変換、生物育成に関する技術のあり方や活用の仕方などについて課題を見つけるとともに、その課題解決のために工夫し創造して、技術を評価し活用することができる。	エネルギー変換、生物育成に関する技術について関心を持ち、技術のあり方や活用の仕方などに関する課題の解決のために、主体的に技術を評価し活用しようとするとともに仲間と協力して活動することができる。
評価方法	・はんだ付け、ラジオ、通電テスト、ノートやレポートなどの提出物 ・自己評価カード ・定期考査 ・技能テスト など	・通電テスト、ラジオ、ノートやレポートなどの提出物 ・自己評価カード ・定期考査 ・技能テスト など	・はんだ付け、ラジオ、ノートやレポートなどの提出物 ・自己評価カード ・技能テスト など

#### 4 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材 名	学習活動	評価の観 点	評価の方 法
4	○ガイダンスを育てるための計画と管理（ミニトマト）	6	生物育成の技術の原理と仕組み	○技術分野のガイダンス ・技術は未来を創る ・技術は生活に直結する ・これからの学習について ○生物の育成に適する条件と、育成環境を管理する方法 ・人・生物・環境のかかわり ・目的とする生物の育成計画	a b c	ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード
5	○生物を育てる技術の評価・活用  ○栽培実習（ミニトマト）（夏休み前後） ○エネルギーの変換・利用と保守点検	6	生物育成の技術の問題解決  エネルギー変換の技術の原理と仕組み	○生物育成に関する技術を利用した栽培 ・植物を栽培するための基礎技能 ・生物を育てる技術とわたしたちのかかわり ○エネルギー変換の仕組みと保守点検 ・電気を安定的に供給する仕組み ・電気エネルギーの変換と利用 ・機器の保守点検の重要性 ・機器の安全な使用	a b c	ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード 定期考査 技能テスト
6	○製作品の設計・製作（電気スタンド）	8	エネルギー変換の技術の問題解決	○エネルギー変換を利用した製作品の設計・製作 ・作品に必要な機能と構造の選択と設計 ・製作品の組み立て・調整や電気回路の配線・点検 ・工具、回路計の使い方	a b c	はんだ付け、ラジオ、通電テスト、ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード 技能テスト
7		6				
8		2				
9	○エネルギー変換技術の評価・活用	8		・エネルギーの有効利用	a b c	自己評価カード 定期考査 レポート

#### 5 課題・提出物等

- ・はんだ付け、ラジオ、通電テスト、ノートやレポートなどの提出物
- ・自己評価カード
- ・技能テスト

#### 6 担当者から一言

技術は自分の生活をより便利に、より安全に、より効率的に、より最適に改善していく教科です。授業で、最適化の見方考え方を身につけ、社会や普段の生活を自ら改善していく力を身につけましょう。

教科（科目）	技術科	単位数	2単位	学年	3学年
使用教科書	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology（東京書籍）				
副教材等	技術・家庭総合ノート 技術分野（東京書籍）				

- ・現在および将来の生活に必要な知識と技術の確実な定着。
- ・生活を工夫し創造する力と実践的な態度の育成。
- ・ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通じた知識および技術の習得。
- ・技術と社会や環境とのかかわりについて理解し、技術を適切に評価し活用する能力と態度の育成。

## 1 学習目標

## 2 指導の重点

- ①基礎的な技術を学び、その科学的な根拠を理解すること。
- ②創意工夫して、ものを作ること。
- ③仕事を計画的かつ合理的に進めること。
- ④班学習を通して、協同と責任と安全を重んじること。
- ⑤技術と生活との関係を理解し、実際に活用すること。

## 3 評価基準

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	情報に関する技術についての基礎的かつ基本的な知識を身につけ、技術と社会や環境との関わりについて理解することができる。 情報に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的かつ基本的な技能を身につけることができる。	情報に関する技術のあり方や活用の仕方などについて課題を見つけるとともに、その課題解決のために工夫し創造して、技術を評価し活用できる。	情報に関する技術について関心をもち、技術のあり方や活用の仕方などに関する課題の解決のために、主体的に技術を評価し活用しようとするとともに、仲間と協力して活動できる。
評価方法	プログラミング、ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード 定期考査 技能テスト など	プログラミング、ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード 定期考査 技能テスト など	プログラミング、ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード 技能テスト など

#### 4 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動	評価 の観 点	評価の方 法
10	○ガイダンス	3	技術分野のガイダンス	○技術分野のガイダンス ・技術は未来を創る ・技術は生活に直結する ・これからの学習について	a b c	ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード
11	○デジタル作品の設計・制作 (パワーポイント)	3		○メディアの特徴と利用方法、製作品の設計 ・デジタル作品の構成 ・デジタル作品の設計・制作 ・情報の受け手を意識した設計 ・情報の受け手を意識した発表 ・情報の評価  ○多様なメディアの複合による表現や発信 ・素材の編集	a b c	ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード 技能テスト
12		3				
1	○プログラムによる計測・制御	3		○コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組み ・計測・制御システム ・プログラムの役割と機能  ○情報処理の手順と、簡単なプログラムの作成・簡単な計測・制御	a b c	プログラミング、ノートやレポートなどの提出物 自己評価カード 定期考査 技能テスト
2		3				
3	○情報技術の評価・活用	2	社会の発展と技術	○情報通信ネットワークと情報モラル ・情報技術の適切な評価・活用	a b c	

#### 5 課題・提出物等

プログラミング、ノートやレポートなどの提出物  
自己評価カード  
定期考査  
技能テスト

技術は自分の生活をより便利に、より安全に、より効率的に、より最適に改善していく教科です。授業で、最適化の見方考え方を身につけ、社会や普段の生活を自ら改善していく力を身につけましょう。

# 令和7年度シラバス（技術・家庭〈家庭分野〉）

学番 市中等1 新潟市立高志中等教育学校

教科（科目）	技術・家庭〈家庭分野〉	単位数	2 単位	学年	1 学年
使用教科書	教育図書 新技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する				
副教材等	教育図書 新技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する 学習ノート				

## 1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

## 2 指導の重点

生活に必要な知識と技術を身につけるために、講義・実験・実習を取り入れ、実践的・体験的な学習をしていく。

## 3 評価規準と評価方法

評価は次の観点で行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けようとする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
評価の方法	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。

## 4 学習計画

月	単元名	授業時数 (と領域)	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	<b>B編衣食住の生活</b> 4章私たちの衣生活	4	1 衣服の働きを知ろう 2 目的に合わせて自分らしく着よう 3 自分に合った衣服を手に入れよう	衣服と社会生活との関わりがわかり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解する。	a b c	上記3に 同じ
5	4章私たちの衣生活	4	4 衣服の手入れをしよう 5 衣服を計画的に活用できるようになろう	衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできる。 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫する	a b c	上記3に 同じ

	5 章生活を豊かにする製作	2	1 布を使ってつくってみよう	制作するものに適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、制作が適切にできる。		
6	5 章生活を豊かにする製作	6	1 布を使ってつくってみよう	資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の制作計画を考え、制作を工夫する	a b c	上記 3 に同じ
	実技テスト	2			a	
7	<b>B 編衣食住の生活</b> 6 章私たちの住生活	6	1 住まいの働きを知ろう 2 家族が暮らしやすい住まい方を考えよう	家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解する。 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解する。	a b c	上記 3 に同じ
8	6 章私たちの住生活	2	2 家族が暮らしやすい住まい方を考えよう	家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解する。	a b c	上記 3 に同じ
9	1 学期期末考査	1			a b	上記 3 に同じ
9	6 章私たちの住生活	4	3 健康を守る室内環境の整え方を考えよう 4 家庭内事故から家族を守ろう	家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。	a b c	上記 3 に同じ
10	6 章私たちの住生活	4	5 災害に備えた安全な住まい方を案が得よう	家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫する。	a b c	上記 3 に同じ

計 35 時間（50 分 授業）

## 5 課題・提出物

ワークシートやノートは授業時間終了時または単元毎に点検し、評価に加える。  
課題や作品は期日までに完成させ、提出する。

## 6 担当社からの一言

家庭科は家庭生活に欠かせない基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、それを家庭生活に生かすことで自分の人生を豊かにしていくための教科です。あなたはどんな人生を送りたいですか？授業を通して一緒に考えていきましょう！



# 令和7年度シラバス（技術・家庭〈家庭分野〉）

学番 市中等1 新潟市立高志中等教育学校

教科（科目）	技術・家庭〈家庭分野〉	単位数	2単位	学年	2学年
使用教科書	東京書籍 新しい技術・家庭〈家庭分野〉 自立と共生を目指して				
副教材等	東京書籍 新しい技術・家庭〈家庭分野〉 自立と共生を目指して 学習ノート				

## 1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

## 2 指導の重点

生活に必要な知識と技術を身につけるために、講義・実験・実習を取り入れ、実践的・体験的な学習をしていく。

## 3 評価規準と評価方法

評価は次の観点で行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けようとする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
評価の方法	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。

## 4 学習計画

月	単元名	授業時数 (と領域)	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
10	<b>1 編 私たちの食生活</b> 1章 食事の役割と中学生の栄養の特徴	4	① どうして食事をするのだろう ② 私たちの食生活 ③ 栄養素ってなんだろう ④ 中学生に必要なような栄養	生活の中で食事が果たす役割について理解する。 中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康により食習慣について理解する。 健康により食習慣について考え、工夫する。 栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特質について理解する。	a b c	上記3に同じ
11	2章 中学生に必要な栄養を満たす食事	4	① 食品に含まれる栄養素 ② 何をどれくらい食べればよいか ③ バランスのよい献立作り	中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解する。 中学生の1日分の献立について考え、工夫する。	a b c	上記3に同じ

	調理実習	2	スパゲッティ ミートソース フレンチサラ ダ	調理に必要な基礎的な知識及び技術を 身に付ける。		
12	3 章調理のための 食品の選択と購入	4	①食品の選択 と購入 ②生鮮食品の 特徴 ③加工食品の 特徴 ④食品の保存 と食中毒の防 止	日常生活を関連付け、用途に応じた食 品の選択について理解し、適切にでき る。 食品や調理器具等の安全と衛生に留意 した管理について理解し、適切にでき る。	a b c	上記 3 に 同じ
	調理実習	2	鮭のムニエル コンソメジュ リエンヌ	調理に必要な基礎的な知識及び技術を 身に付ける。		
1	4 章 日 常 食 の 調 理 と 地 域 の 食 文 化	6	①日常食の調 理 ②野菜・いもの 調理 ③肉の調理 ④魚の調理  ⑤日本の食文 化と和食の調 理 ⑥持続可能な 食生活を目指 して	材料に適した加熱調理の仕方について 理解し、基礎的な日常食の調理が適切 にできる。 地域の食文化について理解し、地位の 食材を用いた和食の調理が適切にでき る 日常の 1 食分の調理について、食品の 選択や調理の仕方、調理計画を考え、 工夫する。	a b c	上記 3 に 同じ
	調 理 実 習	2	肉じゃが すまし汁	調理に必要な基礎的な知識及び技術を 身に付ける。		
2	2 学期期末考査	1			a b	上記 3 に 同じ
2	<b>4 編私たちの食生 活と環境</b> 1 章私たちの消費 生活	6	①消費者とし ての自覚 ②購入方法と 支払い方法 ③バランスよ く計画的な金 銭の管理 ④消費者トラ ブルとその対 策 ⑤何を考えて 決めますか～ 意思決定のプ ロセス～	購入方法や支払い方法の特徴がわか り、計画的な金銭管理の必要性につ いて理解する。 売買契約の仕組み、消費者被害の背景 とその対応について理解し、物資・サ ービスの選択に必要な情報の収集・整 理が適切にできる。 物資・サービスの選択に必要な情報を 活用して購入について考え、工夫する。	a b c	上記 3 に 同じ

3	2 章責任ある消費者になるために	4	①消費者としてできること～権利と責任～ ②省エネルギーと持続可能な社会 ③持続可能な消費生活を目指して	消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解する。 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え工夫する。 自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践できる。	a b c	上記 3 に同じ
---	------------------	---	---	---	-------------	----------

計 35 時間（50 分 授 業）

## 5 課 題 ・ 提 出 物

ワークシートやノートは授業時間終了時または単元毎に点検し、評価に加える。  
課題や作品は期日までに完成させ、提出する。

## 6 担 当 社 か ら の 一 言

家庭科は家庭生活に欠かせない基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、それを家庭生活に生かすことで自分の人生を豊かにしていくための教科です。あなたはどんな人生を送りたいですか？授業を通して一緒に考えていきましょう！

# 令和7年度シラバス（技術・家庭〈家庭分野〉）

学番 市中等1 新潟市立高志中等教育学校

教科（科目）	技術・家庭〈家庭分野〉	単位数	1単位	学年	3学年
使用教科書	東京書籍 新しい技術・家庭〈家庭分野〉 自立と共生を目指して				
副教材等	東京書籍 新しい技術・家庭〈家庭分野〉 自立と共生を目指して 学習ノート				

## 1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

## 2 指導の重点

生活に必要な知識と技術を身につけるために、講義・実験・実習を取り入れ、実践的・体験的な学習をしていく。

## 3 評価規準と評価方法

評価は次の観点で行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けようとする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
評価の方法	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。

## 4 学習計画

月	単元名	授業時数 (と領域)	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	<b>5 編 私たちの成長と家族・地域</b> 1章 家族・家庭と地域	2	①私たちの生活と家族・家庭の機能 ②中学生としての自立 ③家庭生活と地域との関わり	自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気づく。	a b c	上記3に同じ
5	2章 幼児の生活と家族	3	①幼い頃の振り返り ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達	幼児の発達と生活の特徴が分かり、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。	a b c	上記3に同じ

6	2章幼児の生活と家族	3	④幼児の1日の生活 ⑤支えられて身に付ける生活習慣 ⑥幼児の生活と遊び	幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解する。	a b c	上記3に同じ
7	2章幼児の生活と家族	3	⑦幼児との関わり方の工夫 ⑧幼児との関わり方を生活に生かす	絵本制作を通して、幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫する。	a b c	上記3に同じ
8	2章幼児の生活と家族	1	⑦幼児との関わり方の工夫 ⑧幼児との関わり方を生活に生かす	絵本制作を通して、幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫する。	a b c	上記3に同じ
9	1学期期末考査	1			a b	上記3に同じ
9	2章幼児の生活と家族  3章これからの家族と地域	3	⑦幼児との関わり方の工夫 ⑧幼児との関わり方を生活に生かす ①家族との関わり ②家族や地域の高齢者との関わり ③地域での協働を目指して	絵本制作・発表を通して、幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫する。  家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解する。 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解する。 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫する。 家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できる。	a b c	上記3に同じ
10	調理実習	2	幼児のおやつづくり	幼児の発育・発達段階にあわせ、幼児の栄養を考えたおやつ作りができる。		

計18時間（50分授業）

## 5 課題・提出物

ワークシートやノートは授業時間終了時または単元毎に点検し、評価に加える。  
課題や作品は期日までに完成させ、提出する。

## 6 担当社からの一言

家庭科は家庭生活に欠かせない基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、それを家庭生活に生かすことで自分の人生を豊かにしていくための教科です。あなたはどんな人生を送りたいですか？授業を通して一緒に考えていきましょう！

教科（科目）	家庭科（家庭基礎）	単位数	2単位	学年	4学年
使用教科書	教育図書 家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来				
副教材等	教育図書 LIFE おとなガイドデジタル+				

## 1 学習目標

人の一生と家族・福祉・衣食住・消費生活・環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、様々な人と協力して家庭生活の向上を図る能力を養う。

## 2 指導の重点

生活に必要な知識と技術を身につけるために、講義・実験・実習（調理・研究・観察等も含む）を取り入れ、実践的・体験的な学習をしていく。

## 3 評価規準と評価方法

評価は次の3観点で行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を発見し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
評価の方法	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ ・プリントやノートなどの提出物の内容 ・振り返りシートの記述内容 ・授業中の態度、発言や発表、討論などの取り組みの様子 ・実習の取り組みの状況 などから総合的に評価します。

## 4 学習計画

月	単元名	授業時数 (と領域)	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	A編 1 生活設計 2 青年期と家族	5	1 自分の将来を見通そう 1 これからの人生に向かって 2 家族・家庭とは何だろうか？ 3 これからの家庭生活と社会	各ライフステージの特徴と課題を理解した上で、青年期に必要な自立について考える。 職業労働や家事労働の特徴を理解し、日本の雇用環境を考えた上で、将来を見通した職業観を身につける。 家族や家庭とは何か、様々な観点から考えて自分なりの価値観を築く。 家庭生活を支える基本的な法律について理解する。	a b c	上記3に 同じ

5	C編 1 経済計画 2 消費生活  3 環境	8	1 家計とお金の将来を考えよう 1 何をどうやって買う？ 2 かしこい消費者になろう 1 環境問題を考える 2 私たちにできること	家計のしくみや社会との関わりについて知り、家計の収支のバランスについて理解する。また、金融商品の特徴を理解し、将来の財産管理について考える。 1 8歳で大人になるという自覚を持ち、消費行動への意思決定や契約、決済方法などについて理解し、自立した消費者として責任ある行動がとれるようにする。 環境問題について基本的な内容を理解するとともに、自分の消費行動が社会に与える影響を理解し、持続可能な社会のためにどう行動したらよいかを考える。	a b c	上記 3 に 同じ
6	B編 1 食生活	4	1 「食べる」ということ 2 私たちが食べているもの	食事と健康の関わりや、栄養素の種類や機能を理解し、安全・安心な食生活が送れるような知識と技能を身につける。	a b c	上記 3 に 同じ
6	1 学期中間考査				a b	上記 3 に 同じ
6	B編 1 食生活	8	2 私たちが食べているもの 3 安全に食べるために 4 健康に食べるために	栄養素の種類や機能、食品の特徴や取り扱い方などを理解し、安全・安心な食生活が送れるような知識と技能を身につける。 日本の食文化や、年齢・性別・宗教などによる献立の違いなどについて考える。	a b c	上記 3 に 同じ
7	調理実習	2	豚肉と野菜の中国風炒め物	調理の科学的根拠や手順を理解し、食材や調理道具を適切に扱う技術を身につける。	a b c	上記 3 に 同じ
8	D編 ホームプロジェクトに取り組もう	3	ホームプロジェクトの計画 ホームプロジェクトの実践（夏休み課題） ホームプロジェクトの発表	自分の生活を振り返り、自分の生活の課題を見つけ、家庭生活の充実向上を目指し、課題解決をする実践的な活動を行う。	a b c	上記 3 に 同じ
9	B編 1 食生活	2	5 おいしく食べるために 6 ずっと食事を楽しむために	食品ロスなどの現代の食生活の問題点や課題について考える。	a b c	上記 3 に 同じ
9	1 学期期末考査				a b	上記 3 に 同じ
9 10	B編 3 住生活	9	1 「住まい」とは 2 安全な住まい 3 快適な住まい 4 住まいの課題と未来の暮らし	人と住まいの関わりや、住まいの機能について理解する。 災害や家庭内事故を理解し、安全な住まいについて基礎的な知識を身につける。 ライフステージに合わせた快適な住まいについて考える。 平面図を読み取ることができる。 住まいと地域のつながりや、持続可能な住まいの工夫について考える。	a b c	上記 3 に 同じ
11	B編 2 衣生活	5	1 衣服のはたらき 2 衣服ができるまで	衣服の機能について理解し、生活に生かすことができる。 繊維の素材の種類やその特徴、衣服の性能や着心地、衣服の構成について理解する。	a b c	上記 3 に 同じ

	調理実習	2	のっぺ	行事食や郷土食について理解し、それを受け継ぐ担い手であることを自覚しながら、基本的な調理技術を身につける。	a b c	上記 3 に 同じ
11	2 学期中間考査				a b	上記 3 に 同じ
12	B編 2 衣生活	5	3 衣服計画と 管理 4 これからの 衣生活	衣服の購入、活用、手入れ、再利用や廃棄まで考えた衣服計画をたてることができる。 衣服の表示をもとに、衣服の管理ができるようになる。	a b c	上記 3 に 同じ
1 2	A編 3 保育	8	1 子どもの成 長を見つめる 2 子どもの生 活と保育 3 これからの 子育ての環境	子どもの心身の特徴や、発達段階を理解する。 親の役割や子どもを産み育てることの意義を学ぶ。 子どもの生活習慣・食事・健康と安全の重要性を理解する。 子育て支援や子育ての環境整備、また子どもに関する法律野生度について学ぶ。	a b c	上記 3 に 同じ
	調理実習	2	マドレーヌ	製菓の基本的・基礎的な知識と技術を身につける。	a b c	上記 3 に 同じ
2	2 学期期末考査				a b	上記 3 に 同じ
2 3	A編 4 高齢期	5	1 高齢期って ど う い う 時 期？ 2 高齢化する 日本を生きる	自分の将来像としての高齢期について考える。 高齢期の心身の特徴を知り、高齢期に多い疾病について理解し、介助について具体的な方法を理解する。 日本の高齢化の特徴を知り、高齢者福祉の現状と課題について理解する。 高齢者を支える制度やしくみを知り、地域の役割について考える。	a b c	上記 3 に 同じ
	A編 5 共生社会	2	1 共生とは？ 2 ノーマライ ゼーションと は	共生社会の重要性について理解する。 社会保障制度や公的年金制度について理解する。 共生社会の実現のために、社会の一員として何ができるかを考え工夫する。	a b c	上記 3 に 同じ

計 70 時間（50 分 授 業）

## 5 課題・提出物

ワークシートやノートは授業時間終了時または単元毎に点検し、評価に加える。  
課題や作品は期日までに完成させ、提出する。

## 6 担当社からの一言

家庭科は家庭生活に欠かせない基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、それを家庭生活に生かすことで自分の人生を豊かにしていくための教科です。あなたはどんな人生を送りたいですか？授業を通して一緒に考えていきましょう！